

一般社団法人

宮城県理学療法士会



ニュース 2026 (通巻 176 号)

発行日： 2026 年 1 月 1 日

発行： 一般社団法人宮城県理学療法士会

代表者： 渡邊 好孝 編集： 佐々木友也 (E-mail: news.edit@pt-miyagi.org)

もくじ



1. 巻頭言
2. 第 43 回日本理学療法士協会 協会賞受賞！！
3. Column ～ふと気づいたら～ ～ヒーロー～
4. ブロック局だより 各支部長からのご挨拶
5. MPTA 研修会 information !
6. みやぎ PT 学会情報
7. 新人オリエンテーション開催報告
8. 地域活動支援リレー Vol.2
9. 第 4 回交流スポーツ大会の活動報告
10. スポーツ部 活動報告
11. 理学療法士が教えるぜひ読んでおきたいこの 1 冊
12. Instagram はじめました！
13. 「Upper40」～出番ですよ～『F-nudge』

○巻頭言

好きには重みがある

一社) 宮城県理学療法士会
会 長 渡邊好孝

【必要にして十分】

私たちは、誰もが裸で生まれ、生涯で使いきれない大金を手にしたとしても、何も持たずに一生を終えます。

人が生命維持のために必要な資源と、人間の営みと生活のために必要な経営資源は異なりますが、どちらも欲求が満たされると、更にそれよりもより良い価値を求めます。願望や欲望を果てしなく満たそうとするのは、人間の性なのでしょうか。

手の届かないような価値に執着し、目の前の幸せを掴み損ねることもしばしば。どうやら「必要にして十分」という幸せの境地に至るためには、紆余曲折しながらの人生修行が必要なようです。

【八苦】

釈迦は、人間が生きる上で逃れられない根本的な苦しみを“四苦八苦”で説きました。同時代の維摩居士は、「人生は苦悩を経て歓喜に至る」とも説いています。

誰もが、いつか人生の終焉を迎えることは知っていますが、生きることをサボることはできません。幸せづくりの仕事に限界を感じても刹那的にならず、古い自分を解体し、新たな自分を構築し働き続けなければなりません。

“八苦”は人生の修行を積み智慧を得なければ、「必要にして十分」という境地には辿り着けないようです。(吾唯足知)

【人生の辛さを中和するものは】

100 歳以上の人口は 1963 年で 153 人、2024 年

は 95119 人と 60 年で約 622 倍です。また、2000 年代に生まれの半数は 100 歳を超えると予想されています。100 年の生涯をいかに過ごしたらよいのでしょうか。

人生は“八苦”から逃れられませんが、誰もが“深い人間理解とそれに基づく愛”の下で、隣人の幸せを心底から願えば、人生の辛さは中和されるのではないのでしょうか。

【人それぞれの尺度】

自分よりも幸せそうな人や辛そうな人は自分の周りに常にいます。「いつも笑顔で楽しそうに仕事をされていて幸せそうですね」「いつも沈痛な面持ちで、お忙しそうに仕事をされていて辛そうですね」。これらは、今の自分から、過去の自分や未来の自分をさまざまにイメージして他者と比較していること。“そう”に見えるとは、全ての人を並列し自分を普通の人として他者を見ている時の尺度です。“楽しそう、辛そう”に共感はできても、“そう”単純に他者を見た目で評価し理解することはできません。

生きるための選択肢や好きなことをするための近道を示す情報は沢山ありますが、自分の内面にある価値を見失い、外界の人や物やお金や情報に影響されずに、未来の不確かさに備えたいものです。

【好きには重みがある】

好きなことをして夢が叶う保証はありません。だからと言って、自分にとっての“好きには重みが

ある”ので、好きなことを軽々しく投げ捨てることはできません。

好きだからこそ恋人や家族そして仕事に苦心惨憺を厭わない行動ができるのです。

上手くいかないことで自分を責めないで、好きなことに夢中になっている自分を応援しましょう。なぜなら、好きなことに熱中している貴方の存在が、誰かの支えになっていると思えるからです。

これまでより重みのある現実と向き合い選択を迫られるのが人生です。

大好きな理学療法士の仕事から、これからも皆様と笑顔で『Happy』を分かち合えたら嬉しく思います。

○第 43 回日本理学療法士協会

協会賞受賞！！

令和 7 年 6 月 7 日、第 54 回日本理学療法士協会代議員総会におきまして、第 43 回協会賞の授賞式が行われました。今回、宮城県からは渡邊好孝先生、藤野隆喜先生の 2 名が受賞されました。おめでとうございます。

時はバブル経済期の climax です。「飲みに行こう」と誘われて断れるだけの信念のある強者はどれだけ居たでしょうか。かく言う私の士会活動も当然の流れのようにスタートしました。当時 100 名に満たない宮城県の理学療法士は職場を問わずほぼ皆顔馴染みの先輩方でした。リハビリテーションに関する知識や技術の継承のみならず、趣味や人生観に関するアドバイスは、いわゆる third place としての役割として私の identity を形成する一端になった事は確かでしょう。患者さんとの関わりから学ぶこと、先輩や所属施設の他職種から学ぶこと、地域や行政との関わりの中で学ぶこと、それぞれの分野における professional の方々との出会いが、理学療法士として社会に存在する意義や意味を考える礎となってきました。そして東日本大震災。果たして答えの出ない命題を抱えながら、社会貢献という理想と日々の臨床の悩みを共有し・共感できる仲間づくりを求め活動してきた 30 年です。この度頂いた日本理学療法士協会協会賞はそんな多くの方々との関わりの結晶として、私の大切な思い出となりました。飲みに誘って頂いた先生と一緒に受賞式に登壇出来たこともまさに感無量です。多くの出会いに感謝致します。ありがとうございます。

東北労災病院 藤野隆喜



○Column

～ふと気づいたら～

「私はここにいても、いなくても同じなのでは？」と悩むときはないですか。家族や職場や所属している団体の中で、「自分は必要とされていないのでは？」と思うことはありませんか。

ふと気付いたら、子供が大きくなって手がかからなくなった。職場の後輩が成長し相談をされなくなった。自分も成長しているのに誰もその成長を気付いてくれないし喜んでもらえない、と心にダメージを受けて、凹んでいじけたことはないですか。

いつの頃からか、家族や職場の人に、迷惑を掛けないようにと自分を強く見せようと頑張っていませんでしたか。自分一人だけが頑張っていると思うと、なんだかつまらないし疲れますよね。

なかなか気付けないことですが、迷惑を掛け合いながら生きるのが家族で、お互いの力の貸し借りしているのが職場かもしれません。

助けを借りてこそ、人と人はお近づきになり、信頼も築けます。そこで自立に大切な学びを得ていると思います。「相互扶助」や「共存共栄」という言葉もありますね。

頑張っているのに、周囲の人を巻き込めず浮いている人を見ると気の毒な感じがします。「きっと、これまで接してきた方々に対して感謝や謝罪の言葉を面と向かって言ってこなかったんだろうな」、「謝罪されても相手を責めるような人なのかな」と思うことがあります。

お互いのことを分かり合える関係性で、感謝や謝罪の言葉を素直に出して言えないようでは、誰に対しても思いを言えない人になるかもしれません。

自分を、分かってくれていると思っていた人が、分かろうとする人ではなくなったと思った瞬間に、寂しさを感じるのかもしれません。

自分の元から、誰かが離れたり、何かを失ったりする寂しさの経験は、自分の人生の物語を面白くしていると思います。それは、いつか誰かに聞かせたい物語かもしれませんね。

人生は「今を生きる」ことです。頑張ってきた人の周りには、強力な助っ人がいます。そして貴方もその一人なのです。

～ヒーロー～

家庭でも職場でも「自分は誰かにとって大切な存在だ」と感じる事ができれば、その場のヒーローです。

社会のヒーローは、広く一般に認知され、いざというときに信頼でき、重要な場面で力を発揮するごく僅かな人です。例えば、ドジャースの背番号 17 番・18 番。オリンピックのメダリスト。ノーベル賞受賞者です。皆さん素晴らしい結果を残している方々。チームのために、支えてくれた人のために、科学の発展と社会のために、自分のやりたいことを自惚れずに貫き通した人達です。

自分は「取るに足らない、期待もされない存在だ」「居場所のない中高年だ」と言っている人は、環境や境遇に被けて自分を憐れんでいるのかもしれませんが。

自分にだけ気が向いている時には家庭や職場で過ごす人の変化に気付けません。そのようなときに相手は、あなたから重要視されていると思うのでしょうか。

身近な人の思い（感情）を、言葉だけでなく信頼で繋ぐ人こそが、あなたにとっての真のヒーローではないのでしょうか。

Yoshitaka Watanabe

○ブロック局だより

各支部長からのご挨拶

宮城県理学療法士会は14の「支部」で構成されています。各支部では、それぞれ“特色ある独自の活動”が行われています。本号では、「仙南・岩沼支部」「太白支部」「青葉支部」「若林支部」「宮城野支部」「泉支部」「黒川支部」の7つの支部をご紹介します。

【仙南・岩沼支部】 支部長 阿部 功 先生、安孫子 洋 先生（総合南東北病院）

仙南・岩沼支部の支部長をしております安孫子（アビコ）と申します。当支部は圏域が広く、なかなか集合して活動というのが現状できておりませんが、神経理学療法地方会の企画を当支部の所属施設で開催させていただくこともございますし、企画としてはリハ機器のご紹介であったり、症例検討会、支部会員の交流会などを通して、会員の皆様からのご意見やご要望をお伺いしながら活動を進めて参りたいと思っております。何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【太白支部】 支部長 大鹿糠 徹 先生（広南病院）

太白支部で支部長をしております大鹿糠（オオカヌカ）と申します。太白支部では「脳卒中者の歩行再建を考える研修会」と題して、年1～2回のオンライン研修会を開催しております。歩行障害に関連する運動学や脳画像、痙縮など、その分野において豊富な知識を有する先生を全国から講師として招聘しご講演いただくことで、全国規模の研修会に参加できない会員の方々にも最新の知見を得られる機会を提供できるように心がけています。また地域の理学療法士が情報共有できる場として、症例検討会なども企画して参りたいと思います。ご興味のある方は是非ご参加ください。

【青葉支部】 支部長 井澤 真一 先生（東北保健医療専門学校）

青葉支部、支部長の東北保健医療専門学校の井澤真一です。さて、今年度の青葉支部の活動でございますが、令和8年1月25（日）に仙台地区の6つの支部合同での講習会を企画しております。仙台地区ブロック局合同講習会は今年で4回目の開催となります。講習会テーマは、「臨床で役立つ中枢疾患の診かた」です。

その他活動の予定はございませんが、研修会等のご希望ご相談がございましたら、是非ご連絡ください。これからも皆様のご協力のもと活動していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【若林支部】 支部長 片岡 洋樹 先生（仙台医健・スポーツ専門学校）

若林支部支部長の片岡洋樹と申します。若林支部では、年1回、仙台地区の6支部で合同研修会を実施しております。毎年、盛況で本年度も開催予定です。今後に関しては、若林区での交流を深めるための交流会や、地域活動、地域スポーツ、産業保健分野に関連する研修会を開催したいと考えております。なるべく直接顔を見ながらの交流を通して、この地区を盛り上げていきたいと思っております。みんなで楽しく繋がりを増やし、協力体制を作り、一緒に成長していきましょう！

【宮城野支部】 支部長 工藤 渉 先生（仙台東脳神経外科病院）

宮城野支部長を拝任しております、工藤渉です。未だ宮城野支部単独での活動は積極的に行えておりませんが、今年度も仙台地区ブロック局合同での研修会を開催予定でおります。

今後は皆様のご協力をいただきながら、宮城野支部の活動を行っていききたいと考えております。宜しくお願いいたします。

【泉支部】 支部長 高村 真司 先生（仙台リハビリテーション専門学校）

泉支部の支部長を務めさせて頂いている高村真司（仙台リハビリテーション専門学校）と申します。泉支部では昨年度に引き続き、今年度も第2回泉支部研修会（12/20（土））として循環器に関わる研修会開催のご案内を現在させて頂いております。今回もたくさんの先生方のご参加をお待ちしておりますので、引き続き皆様からのご支援の程、何卒宜しくお願い致します。

【黒川支部】 支部長 榎 望 先生（仙台リハビリテーション病院）

黒川ブロックは、富谷市及び黒川郡の1市2町1村の施設で構成されています。会員は約10施設70名、人数規模の大きい2つの病院に会員の大多数が集中しており、半数が会員一人の職場となっています。

当ブロックにおいては、他団体の主催する多職種連携の会の下で顔合わせする機会がありますが、まだ県士会としての単独の研修などの開催には至っておりません。PT同志の顔の見える関係性構築に向けた活動を、今後取り組んでいきたいと考えています。

OMPTA 研修会 information!

副会長（学術局・教育局担当） 村上賢一

登録理学療法士の初回更新が迫っているため、私のところには多くの相談が寄せられています。その多くが、「更新のためのポイントが間に合わない」です。更新のための活動期限は 2026 年 12 月 31 日までとなっていますので、焦っている会員も多いのではないのでしょうか。

結論から申し上げますと、“宮城県理学療法学会と宮城県士会主催の研修会に参加しましょう！”です。自己研鑽のための生涯学習ですので、ポイントのための学習となることには懸念点があります。でも、せっかく取得した認定資格を失うことも勿体ないですね。ポイント取得がきっかけでも、研修会参加のきっかけになって、よい知識、良い技術が得られれば“良し”としましょう！少なくとも 2025 年度、宮城県理学療法士会の研修会は、宮城県士会員にとっては“参加費無料”です。この機会に、研修会に足が遠のいている会員は、参加してみてください。お待ちしております。

【心理学を活かした動作指導法

～実践・運動学習論アプローチ 2025（事後指導・練習計画編）～】

日時：2026 年 1 月 12 日（月祝）

会場：東北文化学園大学（ハイブリッド開催）

講師：鈴木博人、我妻昂樹

セミナー番号：144228（宮城県士会員用）144229（県外会員・非会員用）

登録理学療法士 更新 カリキュラムコード「44 治療プログラム立案 6 ポイント」

【臨床に役立つ中枢疾患の診かた】*第 4 回仙台地区ブロック局合同研修会

日時：2026 年 1 月 25 日（日）

会場：Zoom（オンライン）

講師：佐藤房郎、荒木草太、板垣莉央

セミナー番号：150231（宮城県士会員用）150235（県外会員・非会員用）

登録理学療法士 更新 カリキュラムコード「54 神経・筋機能制御 3.5 ポイント」

○みやぎ PT 学会情報

第 28 回宮城県理学療法学術大会：ご参加・ご支援への感謝を込めて

大会長 鈴木博人（東北文化学園大学）

第 28 回大会にて、大会長を務めさせていただきました。まずは、この場をお借りして、本大会にご参加・ご協力いただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

今回は、県内外から 743 名もの方々にご参加いただき、過去最高の演題数となる 48 題の発表がなされました。各セッションでは、臨床・研究・教育の多様な視点から、熱のこもった議論が展開され、改めて本県理学療法士の高い専門性と実践力を実感する機会となりました。また、演題審査や座長などの運営においても、県内各地から多くの皆様にご支援をいただき、学術的な質の担保に大きく貢献いただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。さらに今回は、オンデマンド配信に加え、ビギナーズセッションや連携症例検討会など、新たな試みに挑戦いたしました。多様な立場・経験をもつ皆様にとって、それぞれの学びや発見につながる機会となったとのお声を多数いただき、大変励みとなりました。

何より、会場で交わされる笑顔や言葉、発表者を真剣に見つめる視線、熱気に包まれた討論の光景に、私は深い感動を覚えました。あの空間に立ち会えたこと自体が、私にとって大きな財産となりました。事後アンケートにも多数ご協力いただき、建設的なご意見を多数頂戴しました。これらを参考に、次大会の改善と発展につなげてまいります。

次回、第 29 回大会は青木和人さん（大和町たかはし整形外科クリニック）が大会長を務められ、我妻昂樹さん（東北文化学園大学）が準備委員長として、新たな企画とスタイルの創出に尽力されています。皆様には、引き続きの温かいご支援とご期待をお願い申し上げます。

本大会を通じて得た絆と学びを胸に、今後も「#みやぎ PT 学会」がより一層発展し、皆様の実践と探究の場として機能し続けるよう努めてまいります。

改めまして、皆様のご参加・ご協力に、心より感謝申し上げます。



2) 第 28 回宮城県理学療法学術大会 受賞者

第 28 回大会では、多くの素晴らしい研究や報告が発表されました。本大会において、各賞を受賞された皆様のコメントを掲載します。受賞者の努力と成果が多くの方々の励みとなり、今後の理学療法の発展に繋がることを願っております。

【大会最優秀賞】

氏名：荒木 草太 氏

所属：東北福祉大学

演題名：回復期脳卒中患者が歩行速度の Minimal Important Difference を上回るための歩行戦略



この度、第 28 回大会において大会最優秀賞を賜り、大変光栄に存じます。学会長の鈴木博人先生をはじめとする学会運営委員の先生方、県士会長の渡邊好孝先生に深く御礼申し上げます。今回、回復期脳卒中患者を縦断的に計測し、歩行速度が著明に改善した患者が獲得した歩行戦略とその患者特性を報告しました。この結果は、歩行速度改善に向けて目指すべき歩行戦略を示す一助になったと考えています。

最後に、本研究にご協力いただいた総合南東北病院とアクラス中央病院の先生方、患者様に心より感謝申し上げます。先生方のご厚意により、臨床現場で計測できることを幸せに感じます。今後も、臨床の質を高める研究ができるよう日々精進して参ります。



大会 HP>>>



【大会奨励賞】研究部門

氏名：佐々木 広人 氏

所属：仙台青葉学院短期大学リハビリテーション学科

演題名：成長期サッカー選手における

主観的柔軟性と客観的柔軟性の関係



この度は大会奨励賞という大変光栄な賞を頂戴し、心より感謝申し上げます。研究にご協力いただきましたチーム関係者の皆様、選手・保護者の皆様、そして日頃よりご指導くださる先生方、学生の皆さんに深く御礼申し上げます。

今回の発表では、県内の中学生サッカー選手を対象に行ったサッカー検診の一部についてご報告させていただきました。今後は、こうした成果を現場でのトレーニングや障害予防、パフォーマンス向上に役立てられるよう努めてまいります。

これからもスポーツ理学療法の実践に少しでも貢献できるよう研究と実践の両面から引き続き取り組んでまいります。

【大会奨励賞】症例報告部門

氏名：村上 海夕 氏

所属：みやぎ県南中核病院

演題名：膿胸腔の閉鎖が困難であった胸壁開窓術後患者に対する呼吸リハビリテーションの経験



このたびは大会奨励賞という身に余るご評価を頂き、大変光栄に存じます。

呼吸困難という苦しみと日々闘う患者様にとって、非薬物療法の代表であるリハビリテーションが、身体的、心理的にどれほど大きな支えとなるかを痛感させられた、非常に印象的な症例でした。本症例を通じて得た、患者様の苦痛ひとつひとつと真摯に向き合うことが運動療法の大きな一歩目に繋がるという学びを胸に、現在も日々の臨床現場での実践に力を注いでおります。

今後も中核病院の一員として、仙南地域全体の健康を見据えた視野を持ち、より幅広い役割を担っていけるよう努めてまいります。

【新人賞】症例報告部門

氏名：佐藤 優成 氏

所属：医療法人松田会 松田病院

(現・医療法人社団保健会東京湾岸リハビリテーション病院)

演題名：長期化した Pusher 現象に対して縦手すりを用いた

起立着座練習が改善に寄与した回復期脳卒中症例

- 身体垂直性に着目した理学療法介入 -



この度、第 28 回大会において新人賞を受賞することができ、大変光栄に思います。本発表では Pusher 現象と垂直認知の関係及びその介入について、私見を交えて報告させて頂きました。Pusher 現象について定量的に評価し、介入対象を明確にする重要性を改めて感じた症例でした。本大会での経験を今後の臨床や研究に活かしていきたいと思います。最後に、発表をご快諾頂いた患者様、共同演者の先生方、そして松田病院のスタッフの皆様

【新人賞】症例報告部門

氏名：鈴木 敦大 氏

所属：東北医科薬科大学病院

タイトル：姿勢制御能力に着目し、早期より理学療法介入
を実施した視床出血の一症例



この度は栄えある賞に選出していただき、誠に光栄に存じます。

本症例報告を通じて、対象症例への理解を一層深めるとともに、多くの先生方から貴重なご助言を頂戴し、評価や治療における新たな視点を得ることが出来ました。日頃より、ご指導・ご支援してくださっている皆様に心より御礼申し上げます。

今回の受賞を励みに、今後も日々の臨床に真摯に取り組むとともに、学会活動にも積極的に参加し、知識と技術の向上に努めてまいります。

○新人オリエンテーション

開催報告

今年も、新入会の方を対象に新人オリエンテーションを8月31日（日）に開催しました。

会場は東北文化学園大学とWEBのハイブリッド開催です。

前期研修のA-1 職業人と倫理について渡邊好孝宮城県理学療法士会会長より講義いただきました。加えて、新生涯学習システムの内容説明と日本理学療法士協会マイページにログインし、操作を行いました。参加者は、これから進む登録理学療法士への道を確認しながら操作を行いました。

新人オリエンテーション後半はE-nudge委員会企画の交流会を行いました。若手～中堅理学療法士の先輩方による座談会です。Webアンケートアプリを用いて、新人理学療法士が今感じていること、悩んでいることなどを共有し、同じ悩みを持っていた先輩方の回答がありました。悩んでいるのは自分だけじゃない！と気持ちが軽くなったのではないのでしょうか。また、1～2年目の働き方などを聞くことで、これからどんな理学療法士になっていきたいかが見えてきたかたもいると思います。宮城県士会員同士で顔を合わせて話ができる貴重な機会となりました。E-nudge委員会では若手PTの「こんなことやってみたい！」を実現できる委員会です！ぜひ一度、E-nudge委員会の企画に遊びに来てください！

WEB参加と対面参加の方を合わせて35名の方にご参加いただきました。来年度もたくさんの方の参加をお待ちしています。職場の新人の方、入会したけど新人オリエンテーションに出ない方、日本理学療法士協会への入会を検討している方、どうしようか迷っている方がいらっしゃいましたら是非、参加のお声がけをお願いします。また、保険の加入手続きも新人オリエンテーションで行っています。未加入の方も多いとのこと。この機会に加入しましょう！

○地域活動支援リレー Vol.2

柴田町 高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施事業 「からだ測定会」の活動

総合南東北病院

黒澤啓志（JPTA フレイル対策推進マネジャー）



柴田町では、柴田町健康推進課職員と有志の「健康サポーター」の皆様とともに、地域の健康づくりに取り組んでいます。測定会には一名の理学療法士を派遣し、体組成計による測定結果の説明や、フレイル・生活習慣病予防を目的とした軽運動の実施を支援しています。

この「からだ測定会」では、理学療法士のほか、柴田町の実地栄養士や歯科衛生士と協力し、身体機能・栄養・口腔機能について重点的に啓発活動を行っています。高齢者に増えているフレイルや生活習慣病の予防には、多職種の連携や地域の皆様のご協力が欠かせません。

体組成計の数値やフレイルインデックスのアンケート結果をもとに、メタボリックシンドロームやサルコペニアなどのリスクが考えられる方へはスタッフからお声がけし、継続的な参加の促しや健康指導、必要に応じた地域包括支援センターとの連携など、アフターフォローも行っています。

また、柴田町では健康づくりの取り組みとして「健康サポーター」制度を導入しています。健康サポーターの皆様には、体組成計の操作、握力測定、血圧測定、アンケート記入補助など、多岐にわたる業務を担っていただき、スタッフ全員で協力して測定会を運営しています。

健康サポーターの多くは、もともと「からだ測定会」の参加者です。参加をきっかけに健康づくりに関心を持ち、研修を受けた後、健康サポーターとして活動に参加されています。現場では、正しい握力測定の方法や体組成計の見方のポイントなどをお伝えできるよう、派遣された理学療法士が適宜助言しています。

これからも地域の健康づくりの輪をさらに広げられるよう、自治体と健康サポーターの皆様と力を合わせて活動を進めてまいります。





利府町 老人クラブ連合会での講演活動

塩竈市立病院

齋 瑞穂（宮城県理学療法士会 塩釜支部））

この度利府町老人クラブ連合会よりご依頼をいただき、令和7年8月29日に「足腰鍛えて利府レッシュ！！～フレイルを予防して健康寿命を伸ばそう！～」をタイトルに講演を行わせていただきました。当日は多くの利府町の皆さまにご参加いただき、地域における介護予防活動への関心の高さを改めて感じる機会となりました。

講演ではまずフレイルの概念とその背景についてお話しし、心身機能の低下が転倒や要介護状態につながる可能性があることをお伝えしました。中でも地域の皆さまからご相談の多い膝痛・腰痛に関する予防の考え方について、科学的な視点を交えつつ解説いたしました。膝痛や腰痛は活動量の低下や社会参加の減少につながりやすく、結果としてフレイルの進行を助長する要因となります。そのため痛みの予防や早期対応の重要性について日々の生活の中で意識していただきたいポイントやご自宅で簡単にできる運動をお話しし、講話後には音楽に合わせた簡単な体操も取り入れ、参加者の皆さまと一緒に実践しながら進めさせていただきました。

今回の講演は、私にとって地域住民の皆さまの前でお話しする初めての機会でした。当日は大変緊張しておりましたが、参加者の皆さまが温かい笑顔やうなずきで応えてくださり、安心感を得ることができました。講演を通じ地域での健康支援活動が住民の皆さまの生活に寄り添う重要な役割を担っていることを実感でき非常に貴重で心に残る経験となりました。今後も、地域の皆さまが住み慣れた場所で安心して生活を続けられるよう理学療法士として地域との連携を深め、介護予防ならびに健康寿命の延伸に向けた活動に努めてまいりたいと考えております。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださいました利府町老人クラブ連合会の皆さまに心より感謝申し上げます。



○第4回交流スポーツ大会

活動報告



石巻支部長 庄司 剛仁
塩釜支部長 鈴木 輝
気仙沼支部長 齋藤 寛太

令和7年10月4日（土）、宮城県石巻市の河北総合センター「ビックバン」にて、第4回交流スポーツ大会を開催しました。気仙沼支部・塩釜支部・石巻支部の3支部合同で企画・運営を行い、県内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の交流および支部間の連携強化を目的として実施しました。

当日は、ソフトバレーボールとチーム対抗車椅子リレーの2種目が行われ、ソフトバレーボールには86名、車椅子リレーには45名が参加。スタッフや家族も含めると100名を超える規模となり、20～30代の若手を中心に活気にあふれる大会となりました。



ソフトバレーボールでは、各チームが一丸となって声を掛け合いながら試合を進め、会場全体が笑顔と歓声に包まれました。負けそうになっても最後まで諦めず、チーム一体で励まし合う姿が印象的でした。



車椅子リレーでは、ほとんど初対面のメンバー同士でチームが構成され、短時間で作戦を立て、見事な連携を見せるチームも多く見られました。スポーツを通して自然と生まれるコミュニケーションの力を感じる時間となりました。



スポーツ大会後の懇親会では、30名以上の方に参加いただきました。交流会ではクイズ大会などの企画も交え、支部の垣根を超えた交流会となりました。スポーツ大会の振り返りだけでなく、業務について相談をする人や興味ある分野で働いている人から話を聞く人、純粋に交流会を楽しむ人とそれぞれの盛り上がり方を見せていました。

今回交流会には参加できなかった人も多くいますので、来年度は一人でも多くの方に参加いただき、宮城県理学療法士会全体での交流を深められるよう企画していきたいと思います。運営にご協力いただいた各支部およびボランティアの皆様、ならびにご参加いただいたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

○スポーツ部 活動報告

第1回宮城県 U15 バasketボールクラブカップ活動報告

総合南東北病院 大須賀愛依

この度、2025年8月15日～17日に、白石市ホワイトキューブで開催された「宮城県 U15 バasketボールクラブカップ」にトレーナー・コンディショニングブースを設置運営することとなり、ボランティアとして参加させていただきました。本大会には県内各地から多くの中学生が集まり、熱気あふれる試合が繰り広げられていました。

大会中は選手が安心して試合に臨めるよう、会場内で試合前後のケアやコンディショニング、テーピング、エクササイズ指導、試合中の応急処置などを行いました。特に連戦により筋疲労や筋痙攣が強い選手も多く、ブースでの限られた時間でどのように対応するか、現場での判断力や対応力の重要性を実感しました。

トレーナー（コンディショニングサポート）として参加する中で印象的だったことは2点あります。1点目はテーピングについてです。総合病院に勤める私にとってテーピングは普段から使うものではなく、テープの種類や貼付方法、強度など、勉強してから臨んだものの、現場でのテーピングは選手一人ひとりのニーズや状態に適したものを、選手が試合間やコンディショニングルームを利用する短時間で実施しなければならないため、スピードと正確性が求められました。私にとって、現場でのテーピングに触れられる機会があまりないため、非常に新鮮であり、より強く関心を持ちました。2点目は試合中のケガによる医療的な判断、対応が求められた場面です。試合中に応急処置が必要な選手がいてコールを受け、先輩の理学療法士と駆けつけ、チームメイトや保護者、関係者スタッフが心配ながら選手を囲むように立っている中で先輩の理学療法士が受傷起点、疼痛の部位や程度などを問診、視診、触診、整形外科的テストを迅速かつ正確に行っている様子を目の当たりにしました。その後スポーツドクターの診療、エコーを実施し、近くの病院に紹介状を書く流れとなりました。このような場面を経験し、冷静な対応とドクターとの連携に必要な情報を取得することで、非常に円滑な情報共有・医療的処置につなげることができるのは理学療法士の強みと実感しました。

私自身、中学時代Basketボール部に所属していたため、今回のような大会に伴って設置されたトレーナー・コンディショニングルームの存在はとても心強い存在と思います。中学生の年代は成長期であるとともにケガへのリスクも高まる時期であり、選手がケガなく、より安全に試合に臨めるようサポートすることの大切さを改めて実感しました。

今回の経験は日ごろの臨床にも通じる学びとなる点がありました。選手一人ひとりの体の使い方や姿勢、疲労のサインを観察することは、一般の患者さんへの運動療法にも共通しています。今後はスポーツ現場と臨床をつなぐ視点を持ち、より日々の臨床に励めたらと思っています。

このような貴重な機会をくださった関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

利用者 内訳

性別：男性 45 名、女性 34 名

学年：中学 3 年生 47 件、中学 2 年生 25 件、中学 1 年生 7 件

1 選手あたりの利用回数：1 回 58 名、2 回 18 名、3 回以上 14 名

対応内容 内訳

総対応件数：90 件（8/15：13 件、8/16：37 件、8/17：40 件）

傷害分類：急性（外傷）30 件、慢性（障害）52 件

部位：膝 23 件、足関節・足 21 件、下腿 19 件、大腿 16 件、手指 6 件

その他 胸背部、股関節、手関節、腰、肩関節

内容：テーピング 48 件、ストレッチ・マッサージ 39 件、コンディショニング指導 23 件

その他 アイシング、可動域訓練、筋力訓練、評価、表皮剥離処置、靴指導 など

評価：病院受診不要 33 件、症状持続/悪化時受診を勧める 44 件

なるべく早い受診を勧める 2 件



○理学療法士が教える

ぜひ読んでおきたいこの1冊

宮城県理学療法士会 副会長

藤野 隆喜

「大きな鳥にさらわれないよう」

川上弘美 著 （講談社）

さて世は ChatGPT など生成 AI により、問題解決の方法に大きな変革を余儀なくされてきております。非常に便利です。しかし、与える情報内容によりその精度と方向性が大きく異なり、プライマリーケアを主としナラティブな対応が迫られるリハビリテーションアプローチにおいて、その活用方法は考えなければならぬでしょう。how-to や evidence base では解決出来ない事象を、ストーリーから image（想像）する思考の拡がりが問題解決の切り口となる事も、臨床の現場では多く体験されることです。

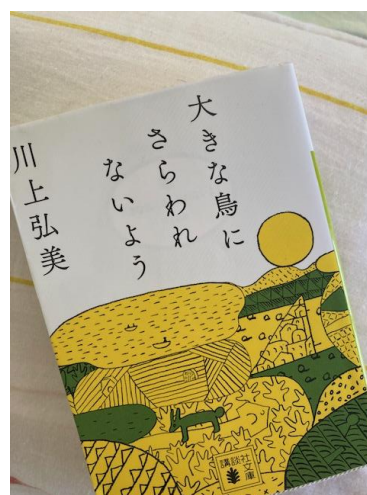
私が紹介するのは、川上弘美著「大きな鳥にさらわれないよう」です。この作品はディストピアなのかもしれないが、絶望を主体としているわけではありません。工場生産人間、男の少ない人間、名の無い人間、クローン人間、光合成人間、デジタルされた人間達等々の営みを「母」なる存在と登場人物達を通して人間の条件、人類の進化が問われています。

連作短編小説の形をとりながら、時代系列をはっきりさせない事で多くの余白を産み出しています。この余白こそ本作品の醍醐味であり、PT として見るならば、ナラティブアプローチを通してオルタナティブストーリーを紡ぐ重要な要素となっています。ヒト科 4 属の中で想像する力を持つのは人間だけです。想像するという事は、絶望もすれば、希望を持つ事もできます。SF でありながら何故かリアリティのある現実の言葉を通して題名の意味を考える作品です。そして結末も読む人に委ねられています。

あなたの読後の感情こそ……。

2016 年に出版、2025 年 1 月に英訳され、英国ブッカー国際賞の最終候補作品となった本作品です。

機会があれば是非ご一読ください。





Instagram
official

はじめました!

Follow me



@MIYAGIPT

miyagipt



○ 「Upper40」 ～ 出番ですよ～

『F-nudge』

JPTA は会員の年齢構成から「Under40」世代の育成に力を注いでいます。そのような中、MPTA はこれまで E-nudge 委員会を通して、若い会員が士会活動に参加しやすい環境づくりに取り組んでまいりました。

E-nudge 委員会の支部活動への支援によって、ベテラン会員も若い会員と共に支部活動を盛り上げていく姿を拝見する機会が増えて嬉しい限りです。

当会には「仕事家庭・私生活の両立を支える委員会」があります。長い委員会名ですので『F-nudge』として親しんでいただければと思っています。この委員会は『「Upper40」50・60・70・80・・・世代』と「Under40」世代がお互いに頼り頼られる関係となることを期待するものです。

お互いの心に留め置ける近しい関係性は、ブロック局・支部での活動と思っています。デジタル空間で「お互いを知る便利さに慣れましたが、心が満たされる感覚にはならないと思います。ジェネレーションギャップは当たり前、だから楽しい（笑）。

私が思う F-nudge の F の勝手なイメージは、「family、female、future、・・・」がよりよくなるように「F」を nudge & boost することです。

令和7年11月30日には、セラピストのためのリハビリテーションマネジメント研修会、「仕事仲間を育てる大変さを分かち合い、明日へのヒントを得よう」を開催していただきました。これをきっかけに、Under40 と Upper40 が力を合わせて士会活動を盛り上げる企画を行って欲しいと思います。私からメールやお電話でベテランの先生方に「F-nudge！！出番ですよ」の連絡をいたしますので、楽しい対応をお願いいたします。

ところで、皆さんは mattering（マタリング）をご存知ですか？近年、well-being の視点から重要視されているものです。英語の matter は「事柄」「問題」「重要である」、ビジネスシーンでは「担当」「案件」「管轄、責任範囲」など幅広い意味を持っています。その matter から派生したのが mattering です。

mattering は、心理学では「自分が他者や社会にとって重要で価値のある存在だと感じること」。社会心理学では「社会における自分の役割や何かに所属している感覚」であり、「社会的なモラルや他者に対する意味ある行動の重要性を意味します。さらに、mattering は、自己肯定感（self-esteem：「私には価値がある」）と自己効力感（self-efficacy：「私には能力がある」）を高め、motivation や、well-being、自己の performance を強化するとも解釈されています。mattering は単なる帰属意識と

は異なります。

mattering が満たされている人は、病気になってもすぐに回復し、心の病を患いにくく、人生に満足していることが多いなどの傾向が認められています。「病は気から」というのも、あながち間違いではないようで、様々な職場での離職率と密接な関係にあるようです。

家庭や職場での自己認識と他者認識のギャップがあると、mattering は満たされません。バランスが取れて一致して上手くいけば、自分は期待される存在と感ずることができると思っています。そうであれば自分自身の成長の実感を持った状態で“仕事の出番”に心から取り組むことができると思っています。

Yoshitaka Watanabe

部署			氏名	勤務先	〒	勤務先住所	勤務先TEL	
理事	会長		渡邊 好幸	医療法人松田会	981-3217	仙台市泉区美沢字立田屋敷17-1	022-378-5666	
				医療法人松田光友会アルパイン川崎	989-1901	鹿田郡川崎町大字前田字北原59-6	0224-84-6121	
	副会長 (事務・財務・事業局担当)		藤野 隆香	東北労災病院	981-8963	仙台市青葉区台原4-3-21	022-278-1111	
	副会長 (学術・教育局担当)		村上 賢一	東北文化学園大学	981-8931	仙台市青葉区国見6-45-1	022-233-2147	
	副会長 (社会・ブロック局担当)		阿部 功	総合南東北病院	989-2483	岩沼市星の杜1-2-5	0223-23-2151	
	副会長 (各種委員会担当)		榎 望	仙台リハビリテーション病院	981-3341	宮谷市成田1-3-1	022-351-8118	
	理事	事務局長	高橋 利幸	エバードグリーン病院	981-3217	仙台市泉区美沢字立田屋敷17-1	022-378-5666	
	理事	財務局長、事務局次長	新山 正都	大和町たかはし整形外科クリニック	984-9042	仙台市若林区大和町1-4-13	022-239-2777	
	理事	事務局次長、職能担当	櫻井健太郎	仙台市立脳神経外科病院	983-0821	仙台市宮城野区岩切1-12-1	022-258-7117	
	理事	学術局長	鈴木 博人	東北文化学園大学	981-8931	仙台市青葉区国見6-45-1	022-233-2310	
	理事	教育局長	鈴木 誠	東北文化学園大学	981-8931	仙台市青葉区国見6-45-1	022-233-2310	
	理事	社会局長	阿部 功					
	理事	ブロック局長	榎田 晋大	仙台医健・スポーツ専門学校	984-0051	仙台市若林区新市2-1-11	022-292-2128	
	理事	事務局次長	坂下昭希恵	医療法人松田光友会アルパイン川崎	989-1901	鹿田郡川崎町大字前田字北原59-6	0224-84-6121	
	理事	学術・教育局担当	高橋 一輝	東北文化学園大学	981-8931	仙台市青葉区国見6-45-1	022-233-2310	
	理事	社会・ブロック局担当	石島 孝樹	株式会社ハートリア	989-3207	仙台市青葉区中山台西11-11	022-263-5823	
	理事	社会・ブロック局担当	関 崇志	広南病院	982-8523	仙台市太白区長町南4丁目20番1号	022-248-2151	
	理事	社会・ブロック局・委員会担当	安藤子 洋	総合南東北病院	989-2483	岩沼市星の杜1-2-5	0223-23-2151	
理事	委員会担当	三田村 悠	東北医科薬科大学病院	983-0512	仙台市宮城野区富田1丁目3番1号	022-258-1221		
監事	監事	遠藤 伸也	仁明会 地域支援事業部	989-0875	石巻市末広町1番1号	0225-96-2736		
	監事	西渡 裕彦	東北文化学園大学	981-8931	仙台市青葉区国見6-45-1	022-233-2310		
	監事	三浦 幸一	特別養護老人ホームまろろ	982-8935	仙台市太白区駒取本町2丁目12	022-398-6124		
相談役	相談役		安藤 等	自宅				
事務局	総務部	(部長)	坂下昭希恵					
	会員情報管理部	(部長)	加藤 弘由	仙台市障害者総合支援センター	981-3133	仙台市泉区泉中央2-24-1	022-771-6511	
	広報部	(部長)	佐々木友広	仙台リハビリテーション病院	981-3341	宮谷市成田1-3-1	022-351-8118	
財務局	経理財務部	(部長)	新山 正都					
事業局	公益事業管理部	(部長)	片山 望	国立宮城機関 仙台西多賀病院	982-8935	仙台市太白区駒取本町2-11-11	022-245-2111	
	社会事業管理部	(部長)	石田美樹子	仙台エコー医療療育センター	989-3212	仙台市青葉区学館字横前1-1	022-394-7711	
	法人事業管理部	(部長)	櫻井健太郎					
学術局	学術大会部	(部長)	青木 和久	大和町たかはし整形外科クリニック	984-9042	仙台市若林区大和町1-4-13	022-239-2777	
	学術誌部	(部長)	平山 和哉	東北文化学園大学	981-8931	仙台市青葉区国見6-45-1	022-233-2310	
	専門領域研究部	(部長)	坂上 西穂	仙台青葉学院短期大学	982-0011	仙台市太白区長町4-3-53	022-268-2871	
教育局	生涯学習部	(部長)	舘明信代子	東北文化学園大学	981-8931	仙台市青葉区国見6-45-1	022-233-2310	
	教育部	(部長)	阿部 立治	東北文化学園大学	981-8931	仙台市青葉区国見6-45-1	022-233-2310	
	予防と健康づくり部	(部長)	岩瀬 隆俊	介護老人保健施設 はまなすの丘	988-0334	仙台市青葉区国見5丁目120-51	022-727-7722	
社会局	スポーツ部	(部長)	千葉 渉	松田病院	981-3217	仙台市泉区美沢字立田屋敷17-1	022-378-5666	
	医療保険部	(部長)	金子竜太郎	松田病院	981-3217	仙台市泉区美沢字立田屋敷17-1	022-378-5666	
	介護保険部	(部長)	渡辺 和良	総合南東北病院	989-2483	岩沼市星の杜1-2-5	0223-23-2151	
ブロック局	仙南支部	支部長 阿部 功 支部長 安藤子 洋				旭南支部 支路長 鈴木 耀 仙台総合病院		
	岩沼支部					黒川支部 支路長 榎 望		
	太白支部	支部長 大橋 肇 広南病院				大崎支部 支路長 小野寺 和久 大崎市民病院本院		
	青葉支部	支部長 斉藤 真一 東北保健医療専門学校				右巻支部 支路長 伊東 貴広 右巻健育会病院		
	若林支部	支部長 片岡 洋輔 仙台医健・スポーツ専門学校				美原支部 支路長 前川 芳輝 美原中央病院		
	宮城野支部	支部長 工藤 渉 仙台市立脳神経外科病院				豊栄支部 支路長 小寺 光彦 豊栄市民病院		
	泉支部	支部長 高村 真司 仙台リハビリテーション専門学校				知仙前支部 支路長 菅原 竜太 介護老人保健施設はまなすの丘		
若狭委員会	災害支援対策委員会		坪田 顕子 (委員長)	合同会社リハビリタ				
	表彰委員会		坂下昭希恵 (委員長)					
	理学療法士の口遊委員会		櫻井健太郎 (委員長)					
	組織調査委員会		榎 望 (委員長)					
	5職種リハ振興委員会		阿部 功 (委員長)					
	先進リハ機器活用推進委員会		安藤子 洋 (委員長)					
	E-radiog委員会		水戸幸由美 (委員長)	仙台市				
	政策検討委員会		藤野 寛太 (委員長)	介護老人保健施設はまなすの丘	988-0334	仙台市青葉区国見5丁目120-51	022-727-7722	
	臨床実習指導者講習会運営委員会		鈴木 誠 (委員長)					
	国際交流・支援等委員会		三田村 悠 (委員長)					
諮問委員会	仕事と家庭・私生活の両立を支える委員会		坂下 昭希恵 (委員長)					
	WTA新時代構想会議		渡邊 好幸 (委員長)					
特設委員会	組織検討委員会		榎 望 (委員長)					
	第45回東北理学療法士学術大会準備委員会		鈴木 博人 (委員長)					
特設委員会	60周年・法人20周年記念誌編集委員会		櫻井健太郎 (委員長)					
	健康増進対策推進委員会		高橋 一輝 (委員長)					
選挙管理委員会				渡辺 利幸	982-0901	仙台市太白区八木山本町2-43-3	022-242-1111	
選出委員	日本理学療法士協会代議員		藤野 隆香 村上 賢一 阿部 功 鈴木 博人	980-0322	仙台市青葉区五橋1丁目6-28Jビル2F	022-266-0022		
	東北ブロック協議会 学術局	理事	渡邊 好幸 新山 正都					
		学術大会部	鈴木 誠					
		機関誌編集部	芝崎 渉	総合南東北病院	989-2483	岩沼市星の杜1-2-5	0223-23-2151	
		教育研修部	川上 真吾	弘石病院	981-0901	鹿島郡市赤井字台53-7	0225-83-2111	
宮城県リハビリテーション専門職協会 理事		渡邊 好幸 藤野 隆香 櫻井健太郎						

